

会報



ふるさと長井会

Support Nagai

令和4年
5月発行
特別号
No.6

ゆかしきは花の長井の白つつじ

(約3000株の白つつじが咲き誇る、白つつじ公園：長井市提供)

ふるさと長井会会長 桑島寛之

皆さま、こんにちは。コロナ禍が長期に続く中ではありますが、皆さまご健勝でお過ごしでしょうか？今年にはコロナ感染症対策の長期継続に加え、先般の福島県沖を震源とする震度6強の地震や世界中を不安に陥れているウクライナ情勢など、先の見通しが不透明な中で落ち着かない日々が続いております。

そんな中でも、季節は確実に移ろい、桜は花開き、野の花は色とりどりに咲き誇ってきています。せめて自分の気持ちだけでも、あの、ふるさと長井の多彩な四季折々を思い出して心穏やかに過ごしたいものだと思うこの頃です。

さて、このたび「ふるさと長井会」の会報第6号を発行するのはこびとなりました。発行に当たって、原稿をお寄せ頂いた皆さま、各種情報をご提供頂いた長井市の方々、あわせてこの困難な時期に編集に当たって頂いた方々に心から感謝申し上げます。発行に際しましては、会としての取り組み概況の報告はもとより、会員の皆さまの声や、ふるさと長井の各地区の現況をご案内して、なかなか帰省もままならない状況下で、ふるさとの現在をお知らせしようと努めさせていただきました。まだまだ工夫の余地はあろうかと思いますが、会員の皆さまからの感想などをお寄せ頂いて、さらに魅力あるものにしていきたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

～ふるさと長井会第6号会報 目次～

- ・ 桑島会長挨拶 P 1
- ・ 内谷市長挨拶 P 2
- ・ ふるさとだより～市内6エリアのコミュニティセンターから～ P 2～7
- ・ 長井市からのお知らせ P 7～8
- ・ 会員の声 P 9～11

- ・ ふるさと長井会からのお知らせ P 11
- ・ 東京事務所便り P 11
- ・ 活動報告及び今年度予定・部会報告 P 12～13
- ・ 令和4年度総会・交流会 P 14
- ・ 会員及びサポーター会員募集について P 14



「ふるさと長井会会報第6号発行に寄せて」

長井市長・顧問 内谷 重治

ふるさと長井会会員の皆様には日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

この2年間、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、会員相互の交流やふるさとへの帰省を断念せざるを得ない状況があったとお聞きしております。私たちもそうであるように、会員の皆様も、菌がゆさや寂しさが募る日々もあったことと推察いたします。しかしながら、新型コロナウイルスに関しては、感染拡大に細心の注意を払いながら、重症化を防ぐためのワクチンを活用しつつ、社会経済活動を進めていく段階に入っており、長井市も前を向いて各種事業を進めております。令和3年5月には山形鉄道フラワー長井線長井駅と一体化した新しい市庁舎が開庁しました。分散していた市役所機能を1カ所に集約、交流スペースや、防災拠点としての機能も整備し、これまで以上に地域活性化、安心安全のまちづくりの拠点としての役割を果たしていきたいと考えております。また、今年度からNTT東日本と連携し「いつまでも便利に安心して暮らせるスマートシティ長井実現事業」を実施しております。デジタル技術を活用して地域の魅力をそのままに大都市に負けない利便性と可能性を探る新たな挑戦に取り組んでおります。これら取り組みには、市内の力だけではなく、様々なノウハウを有した市外に住む皆様のご協力が必要不可欠です。どうか引き続き、長井の未来のため皆様からのお力添えをお願い申し上げます。

結びに、ふるさと長井会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げます。

ふるさとだより

～市内6エリアのコミュニティセンターから～

長井市は2019年から「第2期長井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取組みがスタートし、その施策の一つに“小さな拠点整備と地域づくり活動の充実”があります。具体的には、長井市の中心市街地（中央）と周辺5地区（致芳、西根、平野、伊佐沢、豊田）のコミュニティセンターを拠点に、安心・安全な暮らしのあるコンパクトシティ・プラス・ネットワーク作りの活動を行うものです。そこで今回は【ふるさとだより】として、各コミュニティセンターから活動の様子をご紹介いただきました。

中央コミュニティセンター

「行ぐべ『ふらり』へ!みんなでつぐっぺ
長井のまち」を目指して



中央コミセンQRコードを
読み取って下さい

中央コミュニティセンター館長 大竹 仁



本コミュニティセンターは、中央コミュニティセンター、勤労青少年ホーム（令和4年度よりコミセンに統合）、長井市民体育館、長井市テニスコート、長井高等職業訓練校からなる複合施設で、愛称を「交流センターふらり」としています。令和2年度より「行ぐべ『ふらり』へ!みんなでつぐっぺ長井のまち」をスローガンに掲げ、市民に愛され、地域の活性化や地域づくりの拠点となる施設を目指しています。

本コミセンでは、地域づくりに関わる事業を「地域づくり夢プラン」として実践しています。とりわけ参加者の人気が高かったのが、「まち歩き」です。その中の「大人の社会見学 商店街を歩こう」では、中央地区の5つの商店街（長井中央、高野町、大町通り、本町大通り、あら町）を訪問し、店のいとなみを聞いたり、地元ならではの商品を買求めたりしました。また、「まちなか散歩 ふらり学講座&ふるさと史跡めぐり」では、街中に張り巡らされた水路を辿り、長井の水の豊かさを改めて知ることができました。



きれいに咲いたあやめの花に
思わず笑みがこぼれました
(十日町 白井時計店)

ふるさとの花「あやめ」への愛着を深めようと企画したのが、「あやめ花いっぱいプロジェクト」です。希望者に、あやめを苗から育てていただき、自宅の庭先や通りに鉢を置いていただいて街中をあやめの花でいっぱいにする取り組みです。今年度は小中学校や商店街の皆様を含め、約70名の方に協力をいただきました。来年度は、もっと増やしたいと意気込んでいます。

その他に、少子化によりこれまでの活動が難しい現状を踏まえ、近隣の子ども会との合同の活動や高齢者との世代間交流を促すモデル事業として行った「子ども会活性化事業」、防災講座「知って得する家族と私の防災・減災術」の開催、最上川の河川美化活動、冬の健康づくりを目的とした「いきいき健康教室」（今年度はコロナ感染防止のためやむなく中止）、高校生地域づくりプロジェクト（今年度の「ふらりまつり」で長井高生の研究成果を発表）を行いました。また、「いきいき交流フェスタ」は、コロナ禍の中の工夫として運動会的な活動からグループごとのウォークラリーに形を変え実施しました。

今は、コロナ禍、少子高齢化、地域での人間関係の希薄化など様々な課題がありますが、長井には、「人、自然、歴史」を愛し、誇りを持っている人がたくさんいます。そんな地域の思いをよりよくつないでいくのがコミセンの役割であると考えています。

致芳コミュニティセンター

和致芳の地域づくり ～伝統継承と新たな挑戦～



致芳コミセンQRコードを
読み取って下さい

ふるさと長井会の皆さんこんにちは。そして、旧関東致芳会会員の皆さん、お元気ですか。関東致芳会は、令和元年11月の総会をもって40年の歴史に幕を閉じましたが、奇しくもその直後から、新型コロナウイルスが猛威を奮い始めました。

当方の「関東致芳会との交流実行委員会」も、感染者数が落ち着いたタイミングを見計らい、ようやく昨年の12月に解散総会を開催しました。総会の中では、40年の歴史をスライドにまとめ上映しました。中には、涙を流す実行委員もあり、名残惜しさが漂う幕引きとなりました。

さて、現在の致芳地区は、新型コロナウイルスに負けずに活動しています。特に、次世代の致芳を担う「人財づくり」に力を入れています。令和2、3年度は、致芳小学校と致芳コミュニティセンターがタッグを組み、「Beyondちほう2020」というプロジェクトを立ち上げました。地域の大人と子どもが交流の中で「致芳を愛する心」を伝えることを目的とした活動です。新型コロナウイルスの感染予防対策で、学校行事や地域行事は、人数制限等の課題に直面し、なかなか盛大な事業はできませんでした。しかし、小学校の学習発表会で、子ども達が頑張る姿を致芳限定でLIVE配信したり、地域住民と子ども達が一緒になり、未来の致芳や自分に向けたメッセージをタイムカプセルに投函するなど、工夫しながら活動しています。そう言った新たな活動や長年の地域づくりが評価され、2019～21年度に、コミュニティセンター、致芳小学校、致芳小PTAがそれぞれ各種全国表彰を受け、地域づくりの弾みとなっています。

若手も元気ですが、先輩方も元気です。先日は、長井の伝統芸能である「黒獅子舞」で使用する「わらじ」を製作する講習会を開催しました。近年、「わらじ」を製作する職人が次々に姿を消し、祭礼で使用する大量の「わらじ」が確保できない課



題を抱えています。幸いにも、致芳地区には平均年齢88歳を数える6名の名人がおり、若手が必死になって技を受け継いでいます。名人も、若手との交流によって年々若くなっているような気がします。

また、致芳地区には、長井の伝統工芸品である「長井紬」の織元が2軒残っているのも貴重な地域資源です。近年は、織元から布のハギレを提供していただき、手芸教室を開催し、奥様方から好評をいただいています。

致芳地区も少子高齢化等の多くの地域課題を抱えていますが、「ないものねだり」ではなく、「あるものさし」の視点で「致芳」ならではの地域づくりを展開していきたいと思っています。



西根コミュニティセンター



西根コミセンQRコードを読み取って下さい

西根地区は今、人口減少と共に超加速度的な少子高齢化に直面しており、令和3年3月末で65歳～69歳までの人口が325人であるのに比べて0歳～4歳までは50人という状況です。そのような背景の中でも、明るく安心して毎日生活できるよう共助のパワー全開で生涯学習から環境整備、6次化商品の推進まで幅広く事業を行っています。

その中から令和3年度に実施した「地域で子どもたちを育てようと誓い合った」取り組みと、「地域でできるか。買い物支援へのチャレンジ」をご紹介します。

○地域で子どもたちを育てようと誓い合った取り組み

***西根地区は「教育の村」を宣言している地区です。**

平成になった頃から「地域ぐるみで子ども達の教育を考える」ことに取り組んできた西根地区ですが、平成13年に「家庭、学校、地域が一体となって子育てに取り組むべき」という考えのもとに「教育の村」を宣言しました。その宣言をもっと身近なものにしようと平成18年から「あいうえお運動」に取り組んでいます。そして本年度は20周年記念にあたり、記念宣言や意見発表を行いあらためて地域が一体となって三者の連携と融合を確認し合いました。



意見発表風景・宣言風景

～あいうえお運動～

- あか かてい
一、明るく、あたたかい家庭をつくります
- たいせつ にんしき こえ
一、いのちの大切さを認識し、みんなで声をかけあいます
- うつく かんきょう あんぜん す ちいき
一、美しい環境をまもり、安全で住みよい地域をつくります
- えがお げんき
一、笑顔で元気なあいさつをかわします
- おも こころ も せつ
一、思いやりといたわりの心を持って接します





直売所写真



○地域でできるか。買い物支援へのチャレンジ！

* 西根コミセン直売所「げんき市場」

食品や日用品を販売する商店が閉店し、西根での買い物が難しくなり、寂しい雰囲気になりました。そこで、以前からニーズのあった日用品や産直物が購入できる直売所の試運転を開始しました。周知方法や販売種類の拡大など多くの課題に地区の有志で取り組んでいます。素人の集まりなので一難去ってまた一難ですが、買い物を通して地域の方々の笑顔が増える事を想像しながら、今後も楽しく取り組んでいきます。

平野コミュニティセンター

平野コミュニティセンターは地域と共に、
マジメに楽しく活動しています



平野コミセンQRコードを
読み取って下さい

■地域交流活動の推進



6月水と緑の感謝祭（長井ダム上流）

地域づくりの将来像を地区住民の共通ビジョンとして、『みんなで 一緒にしてみんべ！』を合言葉に各事業の連携や調整をはかり、地区民が一体となった事業を実施しています。

①地域交流の推進、②生涯スポーツ活動の推進、③安全安心事業の推進、④健康福祉事業の推進、⑤生涯教育活動の推進、5つの基本運営計画に沿って地域と共に活動しています。



6月水と緑の感謝祭（平小児童による魚の放流）



11月文化祭



■生涯スポーツ活動の推進



10月地区運動会



■安全・安心事業の推進



8月アルミ缶回収



8月啓蒙活動

■健康福祉事業の推進



ストレッチ教室（毎週）

伊佐沢コミュニティセンター



伊佐沢コミセンQRコードを
読み取って下さい

ふるさと長井会の会員の皆さん、こんにちは！伊佐沢コミュニティセンターです。

今回、ふるさと長井会の皆さんに、コミセンの活動状況などをお知らせいただく機会をいただき、大変ありがとうございます。伊佐沢コミセンの活動について、簡単に紹介させていただきます。伊佐沢地区は、最上川を隔てて長井市の東側に位置し、北、東そして西の三方を緑の山々に囲まれ、南は遠くに吾妻や飯豊の連峰を眺望する静かな農村地域です。地区のシンボルである天然記念物の「久保の桜」、県指定無形民俗文化財の「伊佐沢念佛踊り」が有名で、スイカやリンゴ・ラフランスなどの果樹栽培が盛んな地区です。市内6地区の中では人口がもっとも少ない地区ですが、さまざまな事業を実施しています。

小学生を対象とした「少年教室」や高齢者対象の「春風学級」をはじめ、「盆踊り大会」や「運動会」「文化祭」といった、昔からの事業も継続しておこなっています。しかし、新型コロナウイルスの影響で、大勢の人が集まる事業はほとんどが中止となりました。

多くの事業が中止となる中、何かできることはないかと考え、令和2年7月から動画配信（YouTube）を始めました。内容は、伊佐沢に伝わる郷土料理の紹介やコミセン事業の紹介を中心に配信しています。職員が実際に作ったり、体験している様子を撮影し、編集しています。事業ができない状況で、記録として映像で残すことで、多くの方に見ていただき、コロナ禍でもコミセン活動をやっていることをお見せしたいと思い始めました。

ふるさと長井会の皆さんにおかれましては、ふるさと長井・伊佐沢に帰りたくても帰れない日々が続く、悲しい思いをされている方も多くいらっしゃると思います。そんな方にも、伊佐沢コミセンチャンネルを見ていただき、ふるさとを懐かしんでいただければ嬉しく思います。通常業務の合間の作業となりますので、配信は不定期ですが、これからも撮影は行っていくしますので、よろしくお願いします。



令和3年度文化祭

豊田コミュニティセンター



豊田コミセンQRコードを
読み取って下さい

わたしの背の高さは約20m、腹回りはおおよそ5mあります。案外思ったより小さいでしょ？ わたしの目の高さからはほぼ豊田地区の一円が見渡せます。また、去年は豊田小学校創立130周年を迎えました。私はその時すでに現在の場所にか弱い姿で立っており、豊田のことについては何でも知っています。

せっかくの機会をいただきましたので、ふるさと長井会の皆様には、ちょっと昔のこと、最近のことなどをお話したいと思います。

◇ その1 豊田小学校とわたし

昭和57年、豊田・平野・伊佐沢・長井小学校の半分が合併し長井南中学校となり、豊田中学校の敷地に小学校が移動しました。もとの小学校の敷地はグラウンドになり、今わたしはそのグラウンドの真ん中に根を張ってドーンを立てています。グラウンドで遊ぶ子どもたちの数はめっきり減りましたが、わたしの周りを豊田っ子は元気に走り回っています。また、子どもたちは、1年生から6年生まで1台ずつタブレットを持ち学習や運動に取り組み励んでいます。



◇ その2 最近・・・

コロナ禍でも些少制限はかかって豊田の地域は変わりなく元気です。祭りなども規模を縮小しやり方を工夫し知恵を出し合い奮闘しています。

インフラ整備事業面では、白川河川堤防のかさ上げ工事、置賜病院を結ぶ287号線の東バイパス道路としらかわ大橋の完成、さらには米沢と福島を結ぶ東北中央道が完成しこれまでより20分の短縮が図られました。

公民館も3年前にコミュニティセンターと名称を変え、館長（非常勤）と職員3人が常勤しています。

◇ その3 豊田は、いいよ！

わたしも少なくとも130年以上生きていますが、「豊田はいい所だなあ！」と、しみじみ感じます。毎日飯豊おろしの風に吹かれながら生活していますが、みんな心が温かいし、災害はほとんどないし、雪は降るのが難ですが、豊田は最高！！

大手を振って早く自由に行き来する日を楽しみにしています。早くお盆や正月に皆さんにお会いしたいものですね。



長井市からのお知らせ

安部浩氏を長井市特別功労者として表彰

令和3年度長井市市民表彰式（令和3年11月3日 長井市民文化会館）において、安部浩相談役（前会長）が「特別功労（自治功労）」として表彰されました。

安部氏はふるさと長井しあわせ応援大使として本市を応援されるとともに、ふるさと長井会の初代会長を2期4年にわたり務められ、その間、主に長井市出身者である会員相互の交流を図り体制づくりを進めながら、首都圏での本市PR活動への協力、市内小中学校での出前講座や市民講座の開催など、本市発展に寄与する活動も主導されました。会の基礎を築き、本市発展に貢献したそれらの功績を称えられ表彰されたものです。今後の益々のご活躍をご期待申し上げます。



ふるさと納税で長井市を応援ください！

ふるさと納税でお寄せいただいたご寄附は、長井市のまちづくりの貴重な財源として大切に活用させていただきます。活用先の分野を指定することも可能です。お申し込みはインターネット（ふるさとチョイス・楽天 等）お電話、FAX等で受付いたします。カタログ送付をご希望の際は下記連絡先までお問い合わせください。



ふるさとチョイス



楽天ふるさと納税



ふるなび



さとふる



三越伊勢丹
ふるさと納税



モンベル
ふるさと納税



ふるさと納税に関する 連絡先・問合せ先

長井市ふるさと応援寄附受付窓口
（一般財団法人 置賜地域地場産業振興センター）
電話：0238-88-1842

1. 「羽田スマートシティEXPO2021」にブース出展しました！（2021年11月5～7日）

2020年に開業した大規模複合施設「羽田イノベーションシティ」（東京都大田区羽田空港）の開業1周年を記念して、同所で開催された「羽田スマートシティEXPO2021」に長井市PRブースを出展しました。おなじみ草岡ハムさんのフランクフルトや菅製菓所さんのお麩のから揚げ、芋煮や玉こんになど様々な地場産品を販売しました。また、重要文化的景観や市技・けん玉などの長井市の文化を紹介するコーナーも設けて長井市をPRしました。当日はふるさと長井会会員の皆様にもPRに協力いただいたおかげで、多くの方にブースを訪れていただき、大いに盛り上がりました。ありがとうございました。同所では今後も年に数回、イベントに参加させていただく予定です。ふるさとだよりなどでお知らせしますのでぜひお越しください。



フランクフルト・お麩のから揚げには行列が絶えませんでした。



東京羽田ヴィッキーズのヴィッキーちゃんもけん玉に挑戦



長井市地域おこし協力隊のシェルビーさんは大人気

2. 「新発見！再発見！川のみなとまち山形県長井市」開催！（2021年12月15～20日）

東京・港区白金台にあるポップアップ型ショールームMuSuBu（運営：八芳園）で長井市PR事業を実施しました。「新発見！再発見！川のみなとまち山形県長井市」をテーマに、長井紬、けん玉、芋煮やお麩などの食文化を紹介し、伝統を守りながら新しい文化を発信する長井市の魅力を発信しました。多くの会員の皆様に訪れていただき、また一緒にけん玉をしてPRに協力いただいたりしたおかげで、効果的に本市の魅力を発信できました。ご協力いただきましてありがとうございました。このイベントをきっかけに東京事務所を訪れていただいた方やふるさと長井会に興味を持っていただいた方もおりました。このような機会を活かし、本市と継続的に関わりを持っていただける方を増やしていきたいと思います。引き続きご協力よろしくお願い申し上げます。



内谷市長と安部相談役、飯澤幹事



長井ふるさと御膳に舌鼓を打つ
桑島会長・那須事務局長



けん玉ペインティングに
夢中になる子供たち



長沼酒造とオンラインでつないで試飲



秋元氏の庄巻のけん玉パフォーマンス

3. 長井市の現況や展望はこちら

長井市の旬な話題や重要な施策などを特集するあやめRePo（れぽ）をご存じですか？

今回は長井市の現況や展望を特集した号を紹介します。

QRコードを読み取ってアクセスしてください。

- ① あやめRePo（れぽ）vol.68【2022年3月号】「スマートシティの取組」
- ② あやめRePo（れぽ）vol.66【2021年11月号】「第2期長井市中心市街地活性化基本計画等」

また、同封した「地域おこし協力隊をはじめとする移住定住」あやめRePo（れぽ）vol.67【2022年2月号】もぜひご覧下さい。



①
あやめRePo(れぽ)
vol.68



②
あやめRePo(れぽ)
vol.66

会員の声



「じんだん、味噌餅、おしょうしな～」

八木 倫明（中央地区出身/音楽家）

高卒と同時に長井を出た。1976年のことだから、もう46年も前。これほどの時間が過ぎて、ようやくわかってきたことがある。じんだん団子が美味かった。干し柿が美味かった。昆布巻きが美味かった。味噌餅が美味かった……。

そして最近になって、「じんだん」は、置賜だけの言葉だと知った。山形県でもほかの地域では「ずんだ」と呼ばれる。「じんだん」と発音すると、鶴岡出身の人に「ずんだ」と直される。そんな肩身の狭い思いをしているボクにとって、銀座の山形プラザの一番人気商品が『じんだん大福』であることが、救いだ。それにしても、ボクらが子どもの頃によく食べた「じんだん団子」は、山形プラザにもない。消費期限が短いのだろう。

味噌餅も置賜特有らしいと最近わかった。西川町出身の東京の料理人が、味噌餅を知らなかった。山形プラザには、長井産の味噌餅はなく、白鷹産である。昆布巻きを食べたくなったら、長井の元祖昆布巻きの浜田さんにフェイスブックから注文する。こどもの頃は食べなかった菊芋は、今いろんな料理に使って健康に役立っている。

長井に限らず「じんだん、味噌餅、おしょうしな」が通用する置賜文化圏は、ボクのふるさとだと強く意識するようになった。

今年は6月24日（土）飯豊町、25日（日）に山形市で公演します。



「地方移住者が期待することは」

鈴木 誠（南陽市出身）

私達が日常行動を決定する際には無意識に需要と供給への意識感がある。私が菜園に植える野菜を決める場合、家族の人数と嗜好から推し量った必要量（需要量）を基に苗の本数を決め、栽培管理に当たってはこの需要量に応じた野菜を収穫し一定の量（供給量）を確保できるように努めるようにである。

ところで、我が国の人口は現在、減少期にあると言われている。地域社会の基本は人であり、これが減少していくことは地域社会の存亡にかかわるから、各自治体とも様々な策を考えて人口増加策を講じている。

最近では、地方移住をテーマにしたテレビ番組や各自治体での宣伝活動が活発になっており、そのような場面に遭遇すると、地方では地方の魅力を伝え供給体制が整っていることを訴え、移住希望者からは様々な観点からの注文が示されこれが需要となって、両者がマッチングして初めて移住になると考えさせられる。

地方移住者が期待することは、自然豊かな暮らし、理想の子育ての実現、趣味中心の生活の実現等様々である。これらの期待（需要）に対して地方では、地域社会あげてウエルカム態勢（供給）を整え、様々な媒体を通して周知に努めているところもある。

長井市でも様々な施策を用意しており、移住予備軍の方々に有意な情報を提供し、地方移住ナンバーワンを目指してほしい。

会員の声



「長井魂／長井創生」

遠藤 文 郎（中央地区出身）

ふるさと長井会に設立当初から参画し、現在産業部会の幹事として活動させて頂いております。

少子高齢化や人口減少の趨勢の中で、地方の活力が失われかねない状況にあります。が、持続可能な地域社会の創生の加速を目指した長井の取り組みに賛同し、微力ながら少しでも恩返しが出来ればと思い参画させて頂きました。

長井で生まれ育ち、18歳まで生活しておりましたが、現在は埼玉県に在住し、間もなく半世紀が経過しようとしております。私を育てくれた自然豊かな、かけがえのない故郷長井は、今でも私の人生のベースとして大切な存在です。この素晴らしい故郷の現状を見捨てることは到底できません。

これまでの各部会や市民の皆様の活動を目の当たりにして、その情熱や発想力の豊かさには常々感動をおぼえます。これからもこうした取り組みから有機的な連携により、大きな地方創生へのヒントが見えてくるものと確信しております。この「長井魂」を共有し、長井の創生を目指したいものです。

今後も産業部会の一員として活動を進めて参りますのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。



『甦る米沢海軍—その人脈と消長』 5月末出版予定

工 藤 美知尋（中央地区出身）

明治37・8年の日露戦争時から昭和20年8月の終戦にかけて、世間一般で「米沢海軍」と呼ばれた海軍士官たちが存在したことは、皆様ご存じでしょうか？

米沢・置賜盆地から、具体的には、米沢興譲館中学と長井中学から、海軍士官になるための「海軍兵学校」に入学し、卒業後士官になって海軍将校としてのキャリアを積んだ者たちのグループのことです。

この「海兵」の入学試験の受験資格は旧制中学の4・5年レベルで、中学を卒業していない青年も受験することが出来ました。海兵の定員は、太平洋戦争期を除けば60～百名前後で、その倍率は8～20倍と非常に高いものでした。

米沢興譲館中学は上杉藩の藩校の伝統を引き継いだ中学校でした。幕末の上杉藩では洋学の教育さえ行われていました。したがって明治10年頃より、海兵の入学試験が開始されると、ここから毎年数名が合格するようになりました。海兵に合格して十数年経ち中尉や大尉に昇進し、日本海軍の中堅になった頃、丁度日露戦争にぶち当たる事になったのです。この時、米沢海軍の山下源太郎大佐は大本営作戦班長、黒井悌次郎大佐は旅順港工作廟長として大活躍しました。

大正9年、西置賜郡の中核校として長井中学が開校し、それから数年過ぎて昭和期に入ると、この長井中学からも海兵に合格するようになりました。ただ昭和16年12月に始まった太平洋戦争においては、まだ彼らは尉官に留まっていたため、南雲忠一中将のように名を成すまでには至りませんでした。

拙著の導入では、幕末の米沢藩の苦難の歴史と、その過程で宮島誠一郎が勝海舟と知り合い、上杉藩と言う狭い世界から日本で有用な人材になる意義について教えられ、それが海の無い米沢・置賜盆地から海軍へ入る契機になったことが書かれています。

その後大正期に入ると米沢海軍は全盛期を迎え、昭和5年のロンドン海軍軍縮条約の締結をめぐり米沢海軍に深刻な亀裂が入り、「条約派」と「艦隊派」に分裂したことが明らかにされています。

会員の声



「長井の思い出とその想い」

丸岡 幸司（中央地区出身）

長井を離れて40数年、2020年コロナの年を除いて毎年2回帰省している長井。四季折々ふとした瞬間に思い出がよみがえる長井。

「さくらの花びら舞い散る中走る金井神」、「つつじ公園・あやめ公園での写生大会」、「お祭りの屋台で食べたお好み焼き(どんだん焼き)」、「夏、毎晩練習し舞った常楽院の黒獅子」、「雪渓スベリして遊んだ葉山登山」、「カジカ・ハヤをヤスで突いた夏の野川」、「秋、マラソン大会後の河原での芋煮会」「片手でロープに乗れるようにと通った横森スキー場」「玄関先の雪掃き・屋根の雪下ろしした冬」など。

子供から手が離れ、「そうだ、自分は長井で設計の仕事をしたかった。独立して時間が自由になった今、長井で何かできないか。」と思っていた時、「ふるさと長井会」が設立され入会しました。現在は青年部として「ふるさと長井会」会員の皆さまと長井の良さを発信する活動しております。今後は長井にお住まいの方々と交流・連携して活動できればと思う今日この頃です。

「ふるさと長井会」からのお知らせ

メールマガジン『ふるさと長井会からのお知らせ』をご存じですか？

メールアドレスを登録されている会員の皆様にお知らせしたい話題等をその都度メールでお届けするサービスです。2021年度は16回お届けしました。

【最近の発信】

- 2022/03/23 おらんだラジオ番組「ふるさと長井会 ～ふるさとに声を届けたい～」
出演：青年部会 横山 英人 幹事
- 2022/03/22 大森アートフェス【縄文アートライフデザイン展】（長井市の『古代の丘・縄文村』を展示）
- 2022/03/14 第5回長井ビジネスチャレンジコンテストの報告
（長井市の新規創業者と既存事業者の新しいチャレンジの応援事業）
- 2022/02/16 BS日テレ放映『長井市の旅』（～こだわり田舎自慢～）

【『ふるさと長井会からのお知らせ』が届いていない会員の皆様へお願い】

下記のメールアドレスにご氏名とメールアドレスを送信いただきますと、長井や本会に関する情報等をお届けします。この機会に是非登録して下さい。

メールアドレス：tokyo-office@jibasan.com

（「ふるさと長井会東京事務局」（山形県長井市東京事務所内） Tel/Fax：03-6424-7860）

事務局長 那須 優 則

★ふるさと長井会 ホームページリニューアルのお知らせ

ふるさと長井会のホームページ（<https://furusato-nagaikai.jp/>）がリニューアルしました！ふるさと長井会の紹介、各部会の活動状況、会員インタビュー、会報・おらんだラジオ出演バックナンバーを掲載しています。ぜひご覧ください。



長井市・東京事務所便り

長井市東京事務所では、首都圏での長井市PR活動を通じた関係人口創出・拡大と、地場産品の販路拡大、新たなビジネスマッチングによる地方創生を目指しています。

長井市は豊かな自然、歴史に育まれた魅力的な地場産品、観光資源がたくさんあります。

長井市・東京事務所では関係機関と連携し、長井市の魅力、豊富な情報を首都圏に発信しています。

その他「移住相談」や「ビジネスマッチング」等も行っており「ふるさと長井会の活動拠点」にもなっております。

長井市東京事務所のホームページもご覧ください。

<https://nagai-tokyoooffice.jp/>



令和3年度活動報告及び今年度予定

事務局報告

令和3年度事業報告

①総会交流会：書面総会 ②理事会：web（zoom）会議（4回）：年間事業報告、途中報告、次年度事業案、総会の方法等、③会長招集会議：zoom会議（1回）対面会議（3回）：理事会議事、青年部会とのコミュニケーション、諸問題等 ④事務局会議：対面会議（1回）長井市総合政策課職員との打ち合わせ：今年度の予算、理事会、総会関連 ⑤長井市との意見交換会：無し ⑥県人会：会長出席（1回） ⑦友誼団体との交流：無し ⑧おらんだラジオ：7回出演 ⑨ふるさと長井会からのお知らせ：15回 ⑩新庁舎完成記念植樹

書面総会の結果報告

2016年10月の設立以来、初めての書面での総会であった。書面による総会は執行部からの一方向の報告に留まり、意思の疎通がスムーズに行えないなどの欠点はあるが、会員全員に総会資料を送付し、ご覧いただいたことは大変意義深いことであった。

令和4年度事業計画

①ホームページ（<https://furusato-nagaikai.jp/>）のリニューアル：会の紹介、各部会の活動状況、会員インタビュー、会報・おらんだラジオ出演バックナンバー、長井市のページやSNSとの連携を行い、会員相互の交流を深める。

②長井市、長井市民への協力を前提とした各部会の活動、総会、交流会の開催などが主体である。



(1) 総務・広報部会

令和3年度事業報告

①会報第5号の発送（3年5月中旬） ②会報第6号の編集（3年12月～4年4月）：4月末現在編集作業中。編集完了は4月末、印刷発送5月中旬予定。 ③部会の開催（メールによる連絡意見聴取）：3年4月～4年3月まで4回 ④リアル会議（11月17日 神田駅前）：当面の事業予定、会報発行等の具体的方針の検討を行った。 ⑤いも煮会：コロナのため中止。 ⑥会員名簿の発行：本年は中止。

令和4年度活動予定

①会報第6号の編集、発送（4月～5月中旬）：編集4月末、印刷5月、会員発送5月中旬。②総会・交流会（6月26日）：コロナ次第。中止の場合は書面総会。③いも煮会（開催日未定）：会場の選定 具体化の検討。④部会の開催（上記の変更に応じ随時開催）：5回。本年から広報活動は常時情報収集と編集打合せを行う。⑤会報第7号の編集（11月～4月）

(2) 子育て・教育部会

令和3年度活動結果と令和4年度事業計画

令和3年度の部会の活動として予定していたのは、「出前授業」1回と「市民講座」2回でしたが、いずれもコロナ禍の影響で令和元年度から2年連続で未実施となりました。

【出前授業】

「出前授業」は、講師が星薬科大学名誉教授で、子育て・教育部会の前部会長であった鈴木勉理事が『世界に飛び出そう』と題して薬物乱用防止について、長井市内にある6つの小学校において平成30年度（2018）から毎年2校ずつ実施する計画でした。現在まで4校（（30年度）長井小学校・致芳小学校、（元年度）西根小学校・平野小学校）が終了しており、残りの2校（豊田小学校・伊佐沢小学校）は令和2年度（2020）に終了する予定でした。

令和3年度活動結果と令和4年度事業計画

令和4年度は、この2校の実施に向けて引き続き長井市当局と調整を図っていききたいと思います。

【市民講座】

「市民講座」は令和2年度（2020）上半期に、千葉県立中央博物館の上席研究員で地質学者の高橋直樹幹事が、日本や長井の土地の成り立ちなどを内容とする講演を予定しておりました。

「市民講座」も「出前授業」と同様、コロナ収束までそのまま順延とさせていただき、収束後に再度長井市当局と打ち合わせをしながら実施日などを計画していききたいと思います。



(3) 観光・移住部会

令和3年度活動報告と令和4年度活動予定

①三省堂書店での文庫カバーを使用しての長井のPR（移住・観光・ふるさと納税）②市当局との連動による長井PRペーパーの首都圏での配布。③アルカディア観光局との連動による、各種イベントの企画とバックアップ。④長井のPRに関しての人脈やPRルートの開拓。

4テーマを核として活動を目指してきましたが、コロナ禍による人的交流の縮小もあり具体的に実現する事が出来ませんでした。（三省堂書店、制作デザイン事務所とのパイプはメンテナンスしております。）当部会がテーマに沿った新プラン・新企画を共に考え、市当局やアルカディア観光局等に持ちかけ実現に尽力し、それをバックアップする。このフローが各種テーマを円滑に推進するベースと考えております。次年度は改めてこのフローの整備と推進に努めた上で、部会としての活動のベース創りに取り組み、具体的な実施例を実現すべく進みたいと思います。



西山：モルゲンロートの朝

(4) 産業部会

令和3年度活動報告

①部会（令和3年10月3日メール会議、11月11日メール会議、11月27日13：00～14：20）：第2回理事会報告。コロナ禍の中、第6回総会は書面総会とする。部会の令和3年度後期の活動。緊急事態宣言も終わり、できる活動はやる。（面前会議、長井市訪問の実施）

対面会議 長井市東京事務所 W/市役所課長、長井市訪問（仮押さえ）－（12月16、17日）：産業会、工業会との意見交換ほか、6次産品生産、醸造ぶどう生産状況、レインボープランについて。

②ビジネスコンテストの参観とフォロー（令和4年2月26日）：12グループの発表予定は、コロナ情勢が急変し、高校生は観覧も発表もオンラインに変更。石井利明幹事と工業高校生向けマガジン「チョイス」の阿部編集長が観覧、取材。

③おらんだラジオへの電話出演（令和4年1月24、25日）：内藤英一幹事

令和4年度活動予定

①部会（5月、9月、11月、1月、4回の開催）：情報交換、意見交換、変更等

②長井市出張（令和4年5月頃）：市役所、西置賜産業会、工業会との意見交換、6次産品生産、醸造ぶどう生産状況フォロー、レインボープランの活性化、企業訪問

③西置賜産業会・長井工業会と大田区工業会の相互交流促進（日程未定）

④ビジネスコンテストの参観とフォロー（日程未定）

(5) 青年部会

令和3年度活動報告

①部会の開催：新型コロナウイルス感染防止対策のためリアルでの部会は開催しておりません。令和3年7月29日オンライン（Zoom）での会合を行いました。その他、部会内の連絡や情報交換についてはSNS等を通じて随時行っております。

②長井市PR活動：1. ドンキホーテ大森山王店 山形フェア開催（令和3年11月）地場産品の販売PR、長井市PRパンフの配布を行いました。

③子ども食堂：長井市東京事務所で開催（令和3年11月）大田区社会福祉協議会・長井市東京事務所・ふるさと長井会青年部会で連携。お越しいただいた19組の親子の皆さんに長井市の食材を提供。長井市のパンフレットを配布し長井市PR活動を行いました。その他、令和3年度に計画していた「雪灯り回廊IN池上本門寺」は中止となっております。

令和4年度活動計画

①部会の開催：5月、7月、9月、11月、1月、3月 6回の開催を予定

②長井市PR活動：ドンキホーテ大森山王店 山形フェアへの協力

③長井市への出張：長井市内イベント参加、市民サポーター及び市役所との意見交換等

④長井市・大田区連携イベント：第6回「雪灯り回廊IN池上本門寺」の共催

⑤長井市・東京事務所及び置賜地域地場産業振興センター東京事務所が開催するイベントへのサポート：（墨田公園イベント、池上本門寺・朝市、おたかい観光展等）



秋の田の穂の上に霧らふ朝霞何処の方に
我が恋止まん（万葉集）

令和4年度 総会・交流会についてのご連絡

新型コロナウイルス等の影響を考慮し、本年度の総会については書面総会とさせていただきます。交流会については延期とし、状況をみながら開催に向けて検討してまいります。開催する場合は改めてご案内します。

ふるさと長井会会員及びサポーター会員募集にご協力ください

ふるさと長井会では、一緒に長井を応援してくれる方を募集しています。会員の皆様におかれましては、長井市出身の方はもちろん、会の目的である「ふるさと長井との交流及び情報交換を密にし、長井市の発展に寄与する」に賛同してくれる方の勧誘をよろしくお願いいたします。なお、山形県外にお住まいの方は「会員」として、山形県内にお住まいの方は「サポーター会員」となります。入会方法については下記をご確認ください。

入会方法

ふるさと長井会入会申込書に必要事項をご記入のうえ、郵送、電子メール、FAXのいずれかの方法で下記の連絡先までご連絡ください。ふるさと長井会入会申込書は長井市ホームページよりダウンロードいただくか、長井市総合政策課までお問い合わせください。申込用紙⇒「ふるさと長井会会員を募集します！」
(<https://www.city.nagai.yamagata.jp/soshiki/sougoseisaku/2/1/782.html>)

連絡先・問合せ先

「ふるさと長井会事務局」（長井市総合政策課内）
住所：〒993-8601 山形県長井市栄町1番1号
電話：0238-82-8001 FAX：0238-83-1070
E-mail：koryu@city.nagai.yamagata.jp

ふるさと長井会の会員数 **1,252人**
(令和4年4月末現在)

ふるさと長井会会報 NO. 6

発行 令和4年5月発行
発行者 ふるさと長井会事務局
(長井市総合政策課内)
編集 ふるさと長井会総務・広報部会

株式会社佐竹製作所

相談役 片倉 新治
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-24-3
フォーキャストビル7F
TEL03-3254-3121 FAX03-3254-3122
URL <http://www.satake-s.co.jp>
出身地 長井市中央地区（館町南）
ふるさと長井会 産業部会 幹事

梅津武税理士事務所

所長税理士 梅津 武
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-14-16
クラッシーハウス302
TEL03-5283-9283 FAX03-5283-5284
E-mail:umetsu-zei@etude.ocn.ne.jp
出身地 長井市中央地区（館町南）
ふるさと長井会 副会長 理事

編集後記

コロナも3年目に入りました。『ふるさと長井会』も活動を自粛せざるを得ず、昨年度も総会を開けませんでした。今回は、ふるさと長井からの情報発信を前面に打ち出す編集方針を採用しました。会員の皆さんのほとんどが、ふるさと長井で過ごした日々よりも長い年月を異郷の地で過ごされており、ふるさとは今どうなっているのか興味津々のことと思います。そこで、地域に密着した活動を展開されている各コミュニティセンター（旧公民館）に寄稿をお願いすることにしました。今号は頁数も増えた特別号としてお送りしています。今後も、ふるさと長井と協業しふるさとからの情報発信に努めてまいります。（編集委員長：宮崎正義）

▼皆様の近況や当会報（特別号）のご感想をお寄せ下さい。お待ちしております。左記 **連絡先** まで。



長井市新市庁舎
完成記念植樹
「ソメイヨシノ」が
見事に咲きました!!

目に見えない暮らしの安全を見守りたい
それが私たちの願いです

安心して暮らせる、社会のために——

放射線透過試験／超音波探傷試験／磁粉探傷試験／浸透探傷試験
過流探傷試験／漏れ探傷試験／レーダー探査／気密・耐圧試験



京浜検査工業株式会社

原子力規制委員会使用許可・CIW認定業者

本社：横浜市金沢区福浦2-6-10

TEL: 045-701-2072 FAX: 045-784-4100

山形支店：山形県南陽市若狭郷屋253-2

TEL: 0238-43-8100 FAX: 0238-43-8108

代表取締役：大野治雄（豊田出身）

■ 超音波探傷検査 (UT)



鉄骨溶接部検査状況

■ 電磁波レーダーによる鉄筋探査 (SIR-EZ)



鉄筋探査状況電磁波レーダー



電磁波レーダー



宿泊・宴会は
はぎ苑で

長井の伝統料理と、多彩な和洋中を味わう。

一椀一皿に季節の移ろいを映す、素朴でありながら繊細な里の味。
語りつくせない贅の味をご堪能下さい。



やすらぎと癒やしの空間



日帰り
入浴

卯の花温泉 はぎ乃湯



・長井クラフトビール1本
・長井ふるさとセット
・利き酒セット

ご予約
特典

ご予約していただいた「ふるさと長井会
会員」限定で上記の中の一つをプレゼント
※ご予約の際は「ふるさと長井会会員」ということを
お申し付けください。

（イメージは長井クラフトビール）



はぎ苑

卯の花温泉

はぎ乃湯

癒しの空間



長井市成田 2170-2
TEL: 0238-84-1387



自分らしい価値観に出会う映像の旅 ライク・ア・バード okitama

～旅のその先へ。イザベラ・バードのように、軽やかな一羽の鳥のように。～

アルカディアエリア（長井市・南陽市・白鷹町・飯豊町・小国町）を舞台に「現代のイザベラ・バード」と呼びたくなるような新しいライフスタイルをあゆむ女性たちが旅した動画、5本が公開されました。

ライク・ア・バード okitama
プロジェクトについてはこちらから



「グランドレベルの田中元子さんと訪ねる、暑さ忘れる長井市」

長井を旅したのは、「喫茶ランドリー」の運営をはじめ「まちの1階」からまちづくりを考える株式会社グランドレベル代表の田中元子さん。長井の豊かな自然や、「山の港町」と称される長井の街中を旅し、長井に暮らす素敵な女性達に出逢いました。



長井市編の動画は
こちらからご覧ください

like a bird
okitama
やまがたアルカディア観光局



（一社）やまがたアルカディア観光局
〒993-0003 山形県長井市東町 2-50
TEL:0238-88-1831

観光交流センター『道の駅 川のみなと長井』

（8尺黒獅子頭です、8月に展示します）

（長井橋など『川のみなと長井』周辺部の舟運風景）
施設内にパネルで展示



長井市伊佐沢 黒獅子燦亭 渋谷氏所有



公益財団法人 宮坂考古館所蔵

長井市の観光情報の発信、地域の物産品・地域の青果物などの販売を担っている観光交流センター『道の駅 川のみなと長井』。

開設6年目を迎えます。これもひとえに皆様方のご支援を受けた賜物と感謝申し上げます。

来市される観光客の方、地元の方に『出来て良かった・来て良かった』と思われる様職員一同『一期一会』の気持ちでお待ちしております。

観光交流センター 道の駅『川のみなと長井』

■〒993-0003 山形県長井市東町2番50号
■TEL 0238-87-1121（代表電話） ■公式 <http://kawanominato.jp/>
■E-mail info@kawanominato.jp ■営業日 年中無休
■営業時間 9:00～18:00（1月・2月は～17:00）
※トイレは24時間開放



地元農家の愛情たっぷりの野菜や果物が毎日あふれんばかりに並び、朝採りの新鮮野菜などのおいしさがダイレクトに味わえる。また、地域の特産品を活かした加工品や菓子、お肉・お魚・お惣菜も豊富に取り扱いし、『来て、見て、楽しめる直売所』です。

市民直売所
おらんだ市場  菜なポート

菜なポート公式ホームページ <http://www.nanaport.com>

〒993-0007 山形県長井市本町二丁目 4-36-1 営業時間 / 9:00～19:00
TEL.0238-83-2345 FAX.0238-88-2077